

先月のサークルから2週間。上田と中野での「大道仮説実験講座《しゅぼしゅぼ》」が、各四十名以上の参加で、盛況に行われました。また助手をさせていただきましたが、何回やってもまだ流れをよくつかめていなくてアタフタする場面もありました。でも回を重ねる中で、やり方が分かってきた面があります。それにしても渡邊先生、遠藤先生は、私のような当日の助手だけでなく、事前事後の制作的仕事(チラシ、受付、通信、報告書など)も全部していただいているので、頭が下がります。だんだん知名度も出てきたのか、リピーターも、新規参加者も、上田も中野もいて、活気がある感じです。次は、7月、8月の親子孫講座《磁石》にチャレンジです。

さて、今回もまたまた、資料の紹介ばかりのレポートで、すみません。

(1) 久しぶりに(一応高齢で編入・卒業した)長野大学の図書館がこの5月GW明けから一般開放が再開した模様なので、行ってみました。前回のサークルで渡邊先生が紹介(科学史学会で議論になったとのこと)していた山下政三という人の、『脚気の歴史』という本を見たかったからです。一般人への開放では、貸出もできません。長野大学卒業生は、一般人が2週間の期限のところ、3週間借りられるので有難いです(しかも5冊でなく7冊まで)。『脚気の歴史 ~ビタミン発見以前まで~』(山下政三著)は、江戸までの脚気の歴史について詳細に書かれています。同じ著者の『鴉外 森林太郎と脚気紛争』という本も見たいのですが、長野県立図書館にしかありません(古本だと3万円以上!)

そして、たまたま長大図書館にチラシが置いてあって、東京の三井記念美術館で「三井高利と越後屋」という企画展が開かれている模様。その中に「現金かけ値なし」との記述があり、「かつて聞いたことのある言葉だなあ」と思って調べてみると、渡辺敏先生の「長野における正札商法の始まり」という文章も、古い『たのしい授業』にありました。『社会の発明発見物語』にも載っていました。いろいろと次から次へとつながっていくものですね。

(2) 以前、NHK「笑わない数学」で、「暗号理論」をやっていました。おもしろいと思いました。ビデオに撮ったので、紹介します。そういえば、故・板倉聖宣先生の娘さんの一人(尾形わかほさん)は、東京工業大学で、暗号理論を研究されているのですね。ネットで調べると出てきますよ。それも紹介します。

【今日は、以上です】

たのしい授業

編集「たのしい授業」編集委員会／代表 板倉聖宣

1985年 **5月号** (No.26)

理解とドリル

ドリルの構造／社会科のドリル
自由に発想する法
授業記録(りこうな馬ハンス)



たのしい授業とドリルの構造……………板倉聖宣 6

「おもしろおかしい授業」だって重要です。それは「生活を彩りゆたかにする授業」だからです。でも「たのしい授業」というのはもちろんそれだけではありません。人間の根源的な部分をゆさぶり「哲学的・芸術的なよろこびをもたらす授業」が中心にあります。しかし、それでもまだ不十分です。それがドリルとテストなのです。

歴史のドリルを考える……………長岡 清 27
五つぐらいの年号なら、覚えるのもたのしくて役に立つ

都道府県名のおぼえ方……………千台治男 30
これをゲームにすればおとなも興奮することは実証済み。

面積・体積・人数を考えるとときの基準……………肥沼孝治 33

世界地理：人口のおぼえ方 ●何をおぼえておけばいいのか……………荒井公毅 34

諸君、訓練をイヤがってはならぬ……………新居信正 36
シゴキと訓練は違うのだぞよ。ワサビ入り正調ニイ節。

何でもおぼえちゃおう——昔の唱歌……………池田邦太郎 40
算数・理科・読本，一坪農業だってなんだって歌になる。

授業記録 <りこうな馬ハンス>……………板倉正典 44

●「道德」の研究授業です

「算数ができる馬」の存在をあなたは信じるか。かつてハンスは科学者を降参させ、今「教師の顔色」を失わず。

日本史年表を

フリーハンドでかく法

新発見・新実験コーナー

高村紀久男

56

おもちゃ大好き・変わり種のコマ ●吹きコマ，ヘビコマ……………坂 明 63

短 信

お元気ですか……………片岡美子	1
いつもそばに5月号……………	5
もう一度沖縄に行きたい……………大高安司	60
ハガキで強い形を作る……………名倉 弘	62
編集委員会ニュース……………	66
たのしいのは罪つくり？……………伊藤 武	76
月刊「きびしい授業」……………	128
編集後記……………	132

はみだしたの

欄外一行メモ(毎ページ)

㊦宮本文子	㊧梶 孝司	㊨高山 泰
㊩末松春美	㊪西川浩司	㊫高橋裕子
㊬和歌山敦子	㊭山田正男	㊮青池涼子
㊯中小路雅人	㊰富山啓吾	㊱小川研一
㊲大橋辰也	㊳松崎重広	㊴仁木 正
㊵田安育子	㊶三崎浩司	㊷松橋三郎
㊸丸屋 剛	㊹阿部徹子	㊺板倉聖宣

僕の教師入門……………笹原寿生 67

●授業感想文で子どもに自信をつけさせてもらった僕
子どもに叱られて4年間。やっとほめられたぞ26歳の春。

色弱ミニ問答……………赤井 等 74

キミ子方式をめぐる、自信があるようなないような対話。

中学生に支持された遠足の報告……………増山明夫 78

●旗さがし式オリエンテーリング
「管理・弾圧」ではなく「野ばなし」でもない。自治能力にみあった「契約」で中学生も真剣に楽しめる行事を。

自由に発想する法……………板倉聖宣 88

●原則にとらわれて考える
「何物にもとらわれずに考えよう」とすると、とたんに決まりきった考え方しかできなくなります。「原理原則にはとらわれてみる」ことが「考え方」の第一歩です。

■絵をかくっていうことは 第8回

「全体」を見てはいけない……………松本キミ子 102

遠い未来の目標で「今」を生きてはダメ。絵も貯金もね。

新総合読本⑨ 現金かけ値なし

落合大海 112

読者のページ

荒深雅子
金澤純子

上山正代
上田博和

下角とくえ

118

■ふりむけば君が 番外1号

卵に恋した僕と君……………大橋辰也 124

「生活指導主任」というエラ〜い僕のやることは卵立て。

本誌掲載の授業書はすべて、仮説実験授業研究会の許可を得て掲載しています。

研究会・行事案内等

サークル案内……………	120
仮説会館案内……………	121
キミ子塾全国行脚……………	121
仮説実験授業研究会・新潟大会……………	122
キミ子方式美術の授業研/屋島大会……………	123

広告等

ほるぷ出版……………	表紙 2 (表紙裏)
麦の芽出版会……………	表紙 3
福音館……………	43
日本書籍……………	77
明治図書……………	117
仮説社……………	131
仮説社/パブリックリレーションズ……………	130

げんきん ね 現金かけ値なし

— 定価の発明 —

落 合 大 海

私たちがお店^{みせ}で見たり買ったりする品物^{しなもの}には、たいてい決まった値だん、つまり「定価」がついています。「そんなことはあたりまえじゃないか」とあなたは思うかもしれませんが。私もついこのあいだまではそう思っていました。

去年（1984年）の3月に私がインドに行った時の話です。私はおみやげにインドの民族服^{みんぞく}である「サリー」を買おうと思い、服屋に行きました。店内^{てんない}には、たくさんの服がきれいにならべられていました。ところが、そこに入ったとたん、私はとても困ってしまいました。店にある服にはどれも値だん^ねがついていないのです。仕方^{しかた}がないので目の前にあった「サリー」を一つとって、店員^{てんいん}に「いくらか」と聞いてみました。

「200ルピー」（1ルピーは約30円として約6000円）と店員は答えました。

私は「ちょっと高いなあ」と思って、しばらく他のサリーを見ながら考えていると、

「150ルピー」（約4500円）と値下^{ねさ}げしてきました。

「それなら」と私はその「サリー」を買いました。

しかし、あとになってもっと値切^{ねぎ}ればさらに安く買えたかもしれないことを知りました。別のお店に行った時に、同じ品物をもっと安い値で買わないかと言われたからです。

ころまで持つて参るといふことはいたしておりません。手前どもはもとより割引きした値だんで売り出しており、一銭といえども法外な値はつけておりません。ですから、お客様がお値切りあそばされても、まけるといふことはございませぬ。もちろん、代金はその場にてお支払いくださるようお願いいたします。一銭といえども後払いには応じかねます。以上

呉服物現金安売掛値無し 駿河町二丁目
越後屋 八郎右衛門

越後屋の店先、この引札を片手に持った職人風の男がいました。大工の棟りょうの留吉さんです。混み合う人々の中、以前に仕事先だった家の若い女中とピッタリ眼があいました。

「おや、おいとさんじゃないかい。きれいになったねえ。ところで今日は買物かえ」

「まあ、留吉さん。ひょんなところで……。今日はわたし、お店のご用で実家の近くへ行く途中なんですよ。ついでだからおっかさんと妹におみやげに半襟（着物のエリの内側につけるもので、汚れを防ぐとともに飾りの役割をする）でも買ってやろうかと思ってさ、評判のこちらへ寄ったところなの」

「親孝行か。感心なもんだね」

「うちの旦那様からうかがった話ですけれど、このお店のものはみんな売り値がつけてあるんですってね。本当に安いのかしらね」

「なんでも〈掛値なし〉とかいって、インチキな値だんはつけてないとこの引札に書いてあるんだ。だから値切られてもまけないんだとさ。でもよ、商人がはじめから〈まけない〉なんて言うのは、江戸に將軍様が来てこのかた聞いたことがねえや。そこがどうも俺には腑に落ちないのさ。商いってのは、その時のかけひきで売り値、買い値がつけられるのが当たり前だろ。俺なんか買物の時はいい

いろいろ言っ、値切るのが楽しみでな」

「でも留吉さん、私みたいな世間知らずには、この方が安心して買えそうよ」

「へえー、そういうもんかい。だけどね、ちょっと頼めば少しぐらいなんとかなるにちげえねえ。まあ見てな。お前さんの欲しいものを決めとくれ。俺がかけ合って安くさせるさ。よし、これかい」と言っ、留吉さんは、店の者に声をかけました。

「番頭さん、これ、も少しなんとかまからないかい」

「これはどうもお客さま。せっかくですが、それだけは御かんべん願います。手前どもがこうして〈かけ値なし〉と称して商売をはじめたのは、多くの方々に安心しておいでいただくことを思っ、てです。他店のようにお客様のところへおうかがいして、その場で商いをするんでは、どうしても実際より高い値（かけ値）をつけたりして、少しでももうけようなどと考へてしまいます。また、お客様のほうでもお値切りになるので、これでは手間ひまがかかり、着物をお求めの方々が増えている今のご時勢には合わないんですよ」

「なるほど、ご時勢じゃ仕方がないか。〈現金かけ値なし〉とはうまいことを考へやがったな。おいとさん、すまねえがそういうわけだよ」

「いいんですよ、留吉さん。これからは私たちのような者でも気軽に買物ができる時代になるんですから」

こうして、商品に「かけ値なしの値だん」（これを定価とか正札といひます）をつけた越後屋の商法は多くの人々の支持を受け、売上高も急上昇しました。

この後、「かけ値なし」の商法は他の多くの呉服屋でも取り入れられるようになりました。さらに刃物屋やみそ、しょう油などの店までも「かけ値なし」の看板をかけるようになったということで

す。

* * *

欧米では、1823年にできたアメリカのスチュワート商会という洋服屋が、この「かけ値なし」の商法（定価をつける商法）の先駆けをしたといわれています。そして、19世紀の中頃から欧米の各地にできた百貨店でもこの商法を取り入れ、商品に定価をつけるようになりまし

解 説

（落合大海 東京・文京区第八中学校講師）

「かけ値なし」ということばを私が初めて耳にしたのは、たしか高校の教科書だったと思います。その後もたびたび聞いたのですが、私はその意味と重要性がよくわかりませんでした。ところが、この話で書いたように、定価のないような場所に行ってみて、はじめてその意義を認識しました。そして、その過程をまとめればおもしろいのではないかと思います。「越後屋の新商法」を材料にしてこの物語を書きました。

ところで、なぜ越後屋が他店に先かけてこの新商法を考え出したのでしょうか。

越後屋が江戸で呉服屋をはじめた頃には、すでに同業者がたくさんいました。そこでその中で商売を発展

させていくためには、新しい顧客層を獲得しなければなりません。その必要感が越後屋の元祖三井高利をして、新商法を生み出させたといえると思います。

また、当時の江戸は人口的にも経済的にも発展しつつある世界一の都市でした。そうした中で、安価な着物を買求める新たな人々が出てきたのでしょう。（越後屋は現在の三越デパートの前身です）

なお、越後屋については、中田易直著『三井高利』（吉川弘文館）がよくまとまっていると思います。この物語を書く上でも参考になりました。また、文中の「半襟」は難しいと思います。実物があれば子どもに見せてあげればよいでしょう。

たのしい授業

編集「たのしい授業」編集委員会/代表 板倉聖宣

1987年 9月号 (No.55)

見学のすすめ

見学論/見学記

社会科の授業一覧

ニワトリをかく

ちいさくてもわたし

新連載/模倣の時代

週

核

書

見

楽

児

顔

批

封

気

労

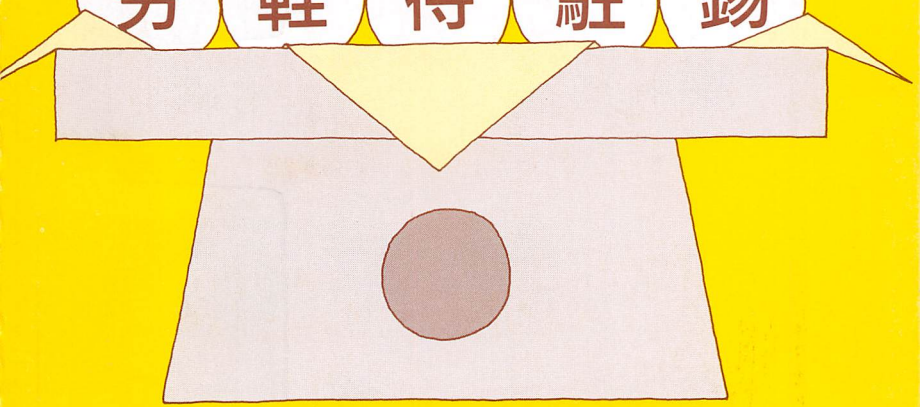
軽

待

駐

錫

●漢字が15字あります。それぞれを同じ読み方ができる漢字に変えて上手にグルーピングすると、季節に関係ある7熟語に組み合わせることができます。どこに境界線を入れて、どんな熟語にすればよいでしょう。(変えた後、読み方が変わるものもあります)



見学論 板倉聖宣 6

●何をすることも仮説実験

見学用に作られていない所へ、好奇心の強い人といっしょに行く。これが楽しくしかもトクをする見学のコツ。

科学博物館見学の手引き [東京] 荒井公毅 13

展示を全部見ようとしてはダメ。そのための手引き例。

天然慈石を求めて [岡山] 武田真理子
岡崎則武 21

●柘原鉱山見学記/磁鉄鉱が手に入ります

動物園見学の本 [大阪] 西本紀彦 26

繊維博物館見学の記 [東京] 長島豊太 28

教科書と同じものいくつ? 尾形邦子 30

●6年生の「国立歴史民俗博物館」 [千葉] 見学遠足

社会科授業プラン・授業記録一覧 —— 長岡 清 編 36

『たの授』その他に掲載された「たのしい社会科」に役立つような文献リスト。「好みみの評価」付き。

地球儀磁石 堀 静香 47

中に入れる磁石をどう固定するか。気分はギルバート。

キミ子方式でニワトリをかく 漆原万里子 52

●4年生と10時間

専科ではないので時間を工面するのが一苦労。でも、3回の授業で全員がクチバシからかく不安をのりこえ、三原色と白(水彩)で「草原のチャボ」を完成。もやし・イカ・毛糸の帽子の次のモデルに。むずかしいから楽しい。

短 信

お元気ですか.....	奥村健史	1
表紙のことば・先月の解答.....	馬場雄二	25
編集委員会ニュース.....		46
原子・分子の歌.....	瀬戸祐輝子	121
担任は他人のはじまり.....	竹村元成	122
仮説実験授業研究会石川大会報告.....		128
月刊「きびしい授業」.....		134

はみだしたの 欄外一行メモ (毎ページ)

㊦鈴木 清	㊩中田好則	㊭小笠原智
㊧樋口勝弘	㊪野村晶子	㊮長岡 清
㊨合田和子	㊫板倉聖宣	㊯松崎重広
㊩吉村七郎	㊬肥沼孝治	㊰望月 薫
㊪遠藤郁夫	㊭小林浩行	㊱加川勝人
㊫西本紀彦	㊮三木 浩	㊲瀬戸祐輝子
㊬伊藤治代	㊯和泉温子	㊳三崎浩司
㊭高山 泰	㊰尾崎文則 (37~74ページ)	

ちいさくてもわたし 小川 洋 67

● はじめて受け持った1年生との日々

これを読んだ人は笑うでしょう。ヒトゴトだものね。しかし、本人は冷汗と脂汗の毎日ですよ。でも笑っちゃう。

模倣の時代 [脚気の歴史] 板倉聖宣 77

■ 第1回 西洋医の奥医師への登用——第13代将軍家定の突然の死

幕末、将軍の病没は政情不安をかきたてたばかりでなく、「もつとも原則的な問題に対する科学者たちの闘いの歴史」の幕をも開いた。はたしてオランダ医学(者)は漢方(医)よりすぐれているのか? 今や火ぶたは切られた。

今日はエライ元気な授業です 吉村 烈 91

■ 高校2年生のみなさんとたのしんだ〈燃烧〉の授業 [最終回]

「マグネシウムは燃えるか」燃やしたマグネシウムの重さはどうなるか——おつ、一段と盛り上がってきました。そして〈燃烧〉第1部の最後を飾るのは、アルミや亜鉛の酸化。しきりに驚きの声が上がります。

25	渡辺 敏	長野における〈正札商法〉のはじめ	107
新総合読本		——丸為商店・藤井名左衛門の冒険——	訳・解説 板倉聖宣
26	渡辺 敏	伊勢の商人と江州商人	112

読者のページ	坂口洋子	少徳 仁	朝日 均	丸山秀一	118
--------	------	------	------	------	-----

■ 中学校教師日記 9月 (最終回)

続・笠岡仮説サークル物語 二階堂泰全 130

気持ちのいいサークルをつくるには、ほくたちの方針。

本誌掲載の授業書はすべて、仮説実験授業研究会の許可を得て掲載しています。

研究会・行事案内等	広告等
サークル・研究会案内..... 123	
たのしい授業ゼミinオキナワ 124	
歴史講座 (名古屋) 124	農文協.....表紙 2
仮説実験授業入門講座 (八王子) 124	麦の芽出版会.....表紙 3
仮説実験授業入門講座 (大阪) 125	ほるぶ出版..... 35
キミ子塾全国巡業..... 126	明治図書..... 117
仮説会館行事案内 (東京・名古屋) ... 126	仮説社..... 137~139
ガリ本図書館..... 127	パブリックリレーションズ..... 136

長野における〈正札商法〉のはじめ

——丸為商店・藤井名左衛門の冒険——

わたなべ びん
渡辺 敏

江戸で〈正札商法〉^{しょうふだしょうほう}が始まったのは、江戸時代の半ばのことでしたが、そのような商法は全国の商店にはなかなか広まりませんでした。たとえば、信濃国^{しなののくに}の善光寺町^{ぜんこうじ}（のちの長野市）に初めて〈正札つきの商店〉が誕生したのは、江戸時代の末、明治維新の寸前のことでした。丸為商店^{まるため}の主人藤井名左衛門^{ふじい なざえもん}がそのとき初めて〈正札商法〉を取り入れたのです。

藤井名左衛門さんはどうしてそのような試みをするようになったのでしょうか。

幸いなことに、明治維新後、長野の小学校の校長となった渡辺敏先生^{わたなべびん}が、明治29年に、当時〈町一番の金持ちの商人〉でくもっても正直な商人と知られていた藤井名左衛門さんに会って、そのときの事情を聞いた話が残っています。そこで、その名左衛門さんの話を紹介することにしましょう。

世も末ともなり騒乱^{そうらん}が起ころうとするときは、いつもこういうものでしょうか。江戸時代の末期にはしばしば小判^{こばん}や銀貨が改造され、その品質は改造ごとに悪くなりました。そこで、物価は次第に値上がりし、買い手はやたらに品物を値切って買おうとしますし、商人はむやみに値段を高く吹っかけるようになります。そうになると、正直に商売することはなかなかできにくくなってしまいます。

そのとき私はつくづく思いました。――

「商売というものは、こんな浅ましいものではないだろう。商品を作る人と求める人との間に立って、その双方の便利をはかり、それ相当の手数料を取って利益をあげるのが商人の道というものではないだろうか。いまの様子を見ていると、まるで人の金銭をいつわり取るようなものだ。商業だって、人の道に反することをしているは長く繁盛しないだろう」

と考えたのです。

そこで、私は、

「江戸や大坂には品物に正札をつけて売っている店もあるから、私の店も正札つきの正直な商売をすることにしたらどうだろう」

とあって、人に相談してみました。ところが人々は、笑ってとりあってくれません。ある人は、

「京都や大坂ならともかく、田舎のひと相手じゃ正札商売はとてま駄目ですよ。田舎のお客は、目のきかないくせに目のきく気になってやたらに値切ります。そして、値切ってまけさせると〈言い値よりこんなにまけさせて買った〉と他人に誇ります。〈あなた様のことだから特別おまけします〉という商人の言葉を真に受けて、〈自分だけが特別扱いされている〉と思って得意になるのです。それなのに、正札をつけて、〈これは一両であれば二分 [= $\frac{1}{2}$ 両] ですよ。どなた様にも一文も値引きいたすわけには参りません〉などとしたら、どうです。田舎の人には如何にも無愛想に思われて、買いにくる人なんかいなくなってしまうですよ。江戸や大坂に正札販売の店があるからといって、この田舎で正札販売をしようなどというのはほとんどないことですよ」

と意見してくれました。

私だって、そういう事情のあることを考えなかったわけではないのです。しかし、私は、

「田舎^{いなか}だって、みんなそういう人ばかりでもないのじゃないか。〈それ相当の金銭を出して、それ相当の品物を買いたい〉という人もいるはずだ。むしろ、〈いくらか高くても商人に誤^ご魔化^{まか}される心配をせず^{まか}にいい品物を買いたい〉とのぞんでいる人もあるだろう。正札つきにしたら一時はお客の減ることもあるかもしれないが、正直なお客を相手にした商売をしたほうが安心だ」

と思ったのです。

ところが、あまりにみんなが賛成してくれません。そこで、私も、
「万が一にも失敗でもしたら、その時こそ人の笑^{わら}い草^{ぐさ}になってしまうなあ」

と、心配になって、しばらくためらっておりました。

ところが、そんなある日〔1864年3月〕、へいぜい懇意^{こんい}にしていたお医者さんの家を訪ねました。そして、いろいろの話をしているとき、何やら門の外でやかましい人声^{こゑ}がして、近所のひとたちが飛び出す物音が聞こえました。

そこで、私もそのお医者さんと一緒^{いっしょ}に門の外^かに駆け出しました。すると、〈諏訪^{すわ}に向かう〉という話^わだった筑波^{つくば}天狗^{てんぐ}党^{とう}の一派^{いっば}（武田^{たけだ}耕雲^{こううん}斎^{さい}の仲間）がこちらにやってきたのです。見ると、その旗^{はた}じるしには、白地に朱文字^{しゆもじ}で

〈自反而縮雖千万人我往矣〉

という文字が書いてありました。しかし、私にはその意味が分かりません。そこで、そのお医者さんに、その旗^{はた}じるしの言葉の意味を聞きますと、

「あれは、自^{みづか}ラカエリミテ、ナオクンバ、千万人トイエドモ我

往^ゆカン、と読むんですよ」

などと教えてくれました。

そのとき、私は〈千万人といえども我ゆかん〉という言葉に大変感激して、〈そうだ、これだ〉と思いました。

そこで、そのお医者さんにむかって、

「じつは私も、これこれの思いがあって、店を正札つき商売にしようと考えてきたのですが、あまりにもみんなが賛成してくれませんが、ためらっていたところです。しかし、いまのお話を聞いて私も決心しました」

と話しました。すると、そのお医者さんは大いに賛成してくれて、

「是非^{せひ}やりなさい。おやりなさい」

と勧め^{すす}めてくれました。

これが、私の店で正札つきの商売を始めた由来です。じつは、この善光寺町で〈正札商法〉をはじめたのは私の店が最初で、私の店が〈正札つき店〉の元祖^{がんそ}となっている次第です。

私は、このように、はじめはお客が減るのを覚悟して実行してみたのですが、〈案^{あん}ずるよりは産^うむが易^{やす}し〉の諺^{ことわざ}のように、予想したより良い結果になりました。それで、御覧^{ごらん}のように、それからというもの商^{あきな}いは一層^{いつそうはんじょう}繁盛するようになりました。それで、前に〈正札商売〉を笑いものにした声に代わって、それを賞賛^{しょうさん}する声^{しょうさん}が聞かれるようになりました。それで、いまでは、私の店を真似^{まね}て正札つきにする店もかなり出てきたというわけです。

解説

この文章は、渡辺敏が1896（明治29）年6月の『信濃教育会雑誌』に発表した「商業家伝」という文章の中の一部をリライトしたものです。

「商業家伝」は、〈丸為商店の主人、藤井名左衛門翁〉〈丸為商店の由来〉〈正札つきの商店と為せし由来〉〈丸為家の家法〉の四つの節からなっていて、いずれも興味深いものなので

すが、そのうちの〈正札つきの商店と為せし由来〉の部分は、以前、落合大海さんが、『社会の発明発見物語』の話の一つとして書いて下さった「現金掛値なし」（本誌 No. 26）の話の地方版ということで採りあげることにしたのです。

この話は、いわゆる〈発明発見物語〉そのものではなく、すでに江戸や大坂にあったものを真似したにすぎません。しかし、〈真似も創造性のうち〉という私の考え通り、そこには創始者の苦労がしのべれます。誰かの発明発見も、それをこのように各地で真似する人々があいつぐことによって、それは大きな社会的な意味を持つようになるのです。まず第一にそのことを知らせたかったのです。

それから、私は、この話が〈明治維新〉前夜の話になっていることに興味を持ちました。天狗党の乱が起きたのは、1864（元治元）年3月のことで、明治維新マイナス4年の出来事です。このことは、〈このような社会的な発明発見の普及は社会変革のエネルギーと深く結びついて実現される〉ということを教えてくれるように思えて、とくに興味をもったのです。

そこで、くできたら、落合大海さんの話のすぐあとにこの話をもって

きたら、いろいろ考えさせられるのではないかと考えて、渡辺敏さんの文章に少し手を入れて、いまの人にも読みやすいように工夫してみたのです。原文自体はとて分りやすい文章なのですが、古い文体でいまは読みにくいところが少なくないのでかなり手を入れてあります。原文は、最近、長野教育会がまとめた『渡辺敏全集』にも収録されています。

渡辺敏（1847～1930）という人は、幕末明治維新の激動期を体験する中で合理的・科学的精神の重要性に気づき、明治8年に官立東京師範学校を卒業して、長野県大町の小学校長となり、その後長野町〔市〕の小学校長となった人です。明治初年の自由民権運動にも関わりがあり、その後たのしい物理実験法を開発した人であるほかに、歴史教育にもたのしい観点を持ち込んだ人として大いに注目すべき人です。私はこの人の一生に共感するところが少なくないので、その詳しい伝記を『かわりだねの科学者たち』（仮説社）の中に書いています。その一部は、かつて『仮説実験授業研究』第8・9集に発表したものですが、大部分は新しく書いたものです。参考にしてください。さるようお願いいたします。

（板倉聖宣，国立教育研究所）